

86 きく (電照)

1 前提

該当する地域	県下全域
設定した経営規模	電照ぎく10a、夏ぎく10a、秋ぎく20a、小ぎく10a、スプレーギク10a
自家労働	2.5人
その他	

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目											台刈・土入れ	△	.....
2年目		.....	仮植圃摘心		挿し芽	電照 ◎	〜	摘心	終	.....	□~□		

凡例：○播種、.....育苗期間、△仮植、◎移植・定植、△ハウス、□トンネル、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F) × (G) × 利率
作業場	木・瓦	50 m <sup>2</sup>	3,055,500	17	509,250	509,250	15	33,950	8	237,650	100	9,506
ビニールハウス	6m×45m	4 棟	7,596,893	50	3,798,446	3,798,446	14	271,318	7	1,899,224	50	37,984
灌水ポンプ	400リットル/分	1 台	171,200	17	28,533	28,533	7	4,076	4	12,229	100	489
管理機	3.5ps	1 台	197,400	17	32,900	32,900	7	4,700	4	14,100	100	564
背負式動力噴霧機	20リットル	1 台	68,780	17	11,463	11,463	7	1,638	4	4,913	100	197
動力噴霧機	可搬式 6ps	1 台	287,700	17	47,950	47,950	7	6,850	4	20,550	100	822
トラクタ	4WD 20ps	1 台	1,955,520	17	325,920	325,920	7	46,560	4	139,680	50	2,794
ロータリ	160cm	1 台	388,049	17	64,675	64,675	7	9,239	4	27,717	50	554
下葉取り機	30~50本/分	1 台	189,288	17	31,548	31,548	8	3,944	4	15,774	100	631
軽トラック	660cc、4WD、350H	1 台	850,000	17	141,667	141,667	4	35,417	2	70,833	100	2,833
合計			15,571,230		5,377,503	5,377,503		473,292		2,607,444		62,965

4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
きく	精雲など	電照(8月出荷)	32,000本	排水良好な水田転作畑	10a

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準		10a 当たり作業時間			燃 料 消費量 (% / 10a)
	作業期間 (月/旬~月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	機械利 用時間	組 員	延労働 時 間	
台刈・土入れ	9/上	油かす	10kg	人力	○優良株1,200~1,500株を親株とし、採花後、株元に油かすを10kg/a 施用しておく。 ○地表から3~5cmの高さで台刈りを行う。 ○土入れは萌芽の基部が土に埋まるようにいねいに行う。		2.0	16.0	
かき芽の仮植	9/下	セルカ2号 花子 50%寒冷紗	4kg 4kg 3m×30m	トラクタ ロータリ 人力 灌水ポンプ	○露地に本ほ10a あたり60~80㎡の仮植床を作る。 ○発根した芽を手でかき取り、10×10cmの間隔で植え付ける。 ○十分に灌水し、寒冷紗で遮光する。	1	2.0	8.0	軽油 4.5 ガソリン 0.5
仮植床土壌消毒	10/上	コロビ°クリン 古ビニール	6 kg 100㎡	管理機 土壌消毒機 トラクタ・ ロータリ	○ハウス内に本ほ10a あたり60~80㎡の仮植床を作る。 ○適度な土壌水分状態で処理する。 ○処理後古ビニールで被覆しハウスを閉め切る。 ○消毒後はガスが抜けるまででいねいに耕耘する。	1	1.0	8.0	ガソリン 1.0 軽油 4.5
仮植床準備	10/下~11/上	セルカ2号 花子	4kg 4kg	トラクタ・ ロータリ	○畦幅80cm 通路50cm	1	1.0	4.0	軽油 4.5
冬至芽仮植	11/中			人力	○冬至芽が発生した苗を10cm×10cmの間隔で定植。1,200~1,500株。		2.0	8.0	
親株の摘心	12/上~2/下			人力	○草丈が10cm程度伸長したとき摘心しわき芽を増やす。 ○親株の最終摘心は2月中~下旬。		1.0	8.0	
採穂・挿し芽	4/上	オキシベロン液剤 200穴セル成型トレ メトロミックス350 ポリフィルム 50%寒冷紗	30ml 75~90枚 5~6袋(450%) 3m×11m 3m×11m	人力	○最終摘心の約35日後に挿し芽を行う。 ○挿し穂の折口にオキシベロン2倍を処理する。ポリフィルムで密閉挿しする。		2.0	40.0	
本圃土壌消毒	4/上	コロビ°クリン 古ビニール	30kg 1,000㎡	管理機 土壌消毒機 トラクタ・ ロータリ	○適度な土壌水分状態で処理する。 ○処理後古ビニールを被覆しハウスを閉め切る ○消毒後はガスが抜けるまででいねいに耕耘する。	7	1.0	8.0	ガソリン 7.0 軽油 13.5
本 圃 準 備	4/中	堆肥 セルカフレンド 花子 ミネラル宝素	3000kg 100kg 200kg 100kg	トラクタ・ ロータリ 灌水ポンプ	○畦幅80~85cm 通路50cm ○灌水を十分に行う。	6	2.0	20.0	軽油 13.5 ガソリン 2.0 ガソリン 1.0
定 植	4/下			人力	○株間10~15cm、条間30~35cm、定植苗数12,000~15,000本。		2.0	48.0	
電 照	4/下~6/下	電照設備 (75W省エネ型電球)	130灯		○定植と同時に深夜4時間電照する。		2.0	12.0	電気

技術体系

項目 作業名	耕種基準			作業基準		10a当たり作業時間			燃料消費量 (ℓ/10a)	
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	機械利用時間	組人員	延労働時間		
摘心	5/上			人力	○定植10～15日後、4～5節残して摘心する。		2.0	8.0		
整枝	6/上～6/中			人力	○大きさのそろった芽を2～3本に整理する(35,000～36,000本/10a)。		1.0	30.0		
支柱立て・ネット張り	6/中	フラワーネット 12cm×55 支柱パイプ 130cm	700m 780本	人力	○定植時から草丈30cmまでに行う。 ○フラワーネットは草丈の7割程度の高さに適宜引き上げる。		2.0	24.0		
除草	5/上～7/下			人力	○適宜手取り除草する。		2.0	8.0		
灌水	4/下～8/上	灌水チューブ一式		灌水ポンプ	○乾燥時適宜灌水する。	4	1.0	4.0	ガソリン 4.0	
摘芽・摘蕾	7/上～8/上			人力	○蕾が小豆粒大になったら、頂花を残して摘蕾する。わき芽は順次摘除する。		4.0	300.0		
わい化剤散布	7/下	ビーナイン水溶液	800g	200g	背負式動力噴霧機		3	1.0	4.0	ガソリン 3.0
収穫・調製	8/上	ダンボール 輪ゴム クラフトテープ	320箱 16ヶ	軽トラック 下葉取り機 人力	○朝切り・水揚げを励行する。 ○採花時期を厳守する。		20	2.0	400.0	ガソリン 20.0 電気 100.0
病害虫防除	通年	ジェイエース粒剤 アルバリン顆粒水 カスケード乳剤 モスピラン水溶液 アドマイヤー707F ニッソラン水和剤 DDVP乳剤 ハチハチ乳剤 ジマンダイセン707 ダコニール1000 サブロール乳剤 ストロビー707F	9kg 200g 300ml 55g 190ml 125g 15ml 210ml 975ml 825ml 510ml 205ml	動力噴霧機 軽トラック	○白さび病、アブラムシ類、ダニ類、アザミウマ類が多発するので予防散布を徹底する。		42 25	1.0	51.5	ガソリン 42.0 ガソリン 25.0
合計								1,015.5		

## 5 経営試算(10aあたり)

区分	科目	金額	説明	
粗収益	主産物価額③	2,121,600	生産量①： 32,000 本 単価②： 66 円/本	
	主産物価額	0	生産量： 単価：	
	主産物価額	0	生産量： 単価：	
	副産物価額④	0		
	計 (A)	2,121,600		
生産原価	種 苗 費	40,000		
	肥 料 費	58,833	使用資材等は技術体系のとおり	
	農 薬 費	84,141	"	
	諸 材 料 費	111,324	"	
	動力光熱費	99,389		
	農 具 費	43,469	機械負担価額×4%	
	建物等修繕費	88,514	建物・構築物負担価額×1%	
	賃 料 料 金	0		
	共 済 掛 金	6,713		
	雇 用 労 賃	97,840		
	減価償却費⑤	473,292	別表のとおり	
	土地改良費	7,900		
	支払地代⑥	0		
	小計 (B)	1,111,416		
費	販売費一般	出荷資材費	78,597	
	管理費	販 売 諸 費	364,400	
		諸税負担金	7,897	農協賦課金、車検料、固定資産税
		事務研修費	9,267	農業新聞購読料、電話代
		支払利息⑦	20,666	借入資本利率2%
	小計 (C)	480,826		
経 営 費 (D)	1,592,242	注) (D) = (B) + (C)		
家族労働費見積額 ⑧	1,181,180	農 従 労 働 時 間： 893.2 生産管理労働時間 15.4 1,300 円/時間		
支払利子・地代算入生産費(E)	2,773,422	主産物単位当たり 87 円/1本 注 (E) = (D) +⑧-④		
自己資本	流動資本利子⑨	45,589	注) ⑨= ((E)-⑤-⑦) / 2 × 0.04	
利子(F)	固定資本利子	62,965	利率4%	
自 作 地 地 代 (G)	10,267			
全算入生産費 (H)	2,892,243	生産物単位当たり 90 円/1本 注) (H) = (E) + (F) + (G)		
所 得 (I)	529,358	時間当たり 583 円 注) (I) = (A) - (D)		
所 得 率 (J)	25	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100		
農企業利潤 (K)	-770,643	注) (K) =③- (H)		
家族労働報酬 (L)	410,537	時間当たり 452 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)		
農業資本利潤 (M)	-651,822	注) (M) = (I) -⑧		

